

2023 年度(令和 5 年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 59	福山市立日吉台小学校
最終更新日	2024年(令和6年)2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ
・タブレット端末を活用した新しい授業の形態にも慣れてきたように思う。この先、大変なことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張りたい。	・小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は、全国平均を若干下回っている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子ども
・地域とのつながりを大切にする子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力を願いたい。	・中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。	中学校区として統一した取組等	・発信、表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり ・相手、目的意識をもたせた特別活動の充実 ・図書館を含めた学習環境の整備

III 自校

ミッション	社会の一員としての自覚を持ち、夢に向かって果敢に挑戦しようとする子どもを育成する。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ	
学校教育目標	自ら気づき、考え、判断して行動する子どもの育成	めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。
現状	<児童> ・付ける力、やることなどゴールが明確な学習や活動には意欲的に取り組む。 ・学びに向かう児童、委員会・係活動に責任を持って取り組む児童が増えてきた。 「目標や努力することを決めて取り組んでいる」92.4%、「学校・学級で自分の役割を果たしている」91.7%。 ・生活リズムをマネジメントすることができない児童が固定化している。 <授業> ・自由進度学習、タブレットの活用、課題探究学習など、多様な学び方による授業展開を行っている。「授業がよく分かる」95.9%、「難しい問題でもあきらめない」92.1%、「授業で考えることは楽しい」94.5%。 ・読む、書く、表現する力が定着しておらず、教科学力の個人差が大きい。 ・読む、書く、表現する力の定着に向けて、相手意識を持たせた言語活動の充実が必要である。 ・授業力の向上に向けた教職員の研修を充実させる。		中学年	既習内容や知識をもとに、自ら問いを見つけることができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。
			高学年	既習内容や身の回りから探究したい課題を見つけ、解決の見通しを持つことができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。
研究	テーマ	学び楽しさを実感しながら、主体的に学びに向かい、力を育む授業づくり ～教材研究による付ける力の共有、目的意識を持たせた言語活動を通して～	内容等	計画的な言語活動、探究的な学び等についての理論研究・単元づくり 小グループでの教材研究・授業研究・協議	めざす授業の姿	・子どもが、「なぜ?」「なるほど」「できた」「わかった」と実感する授業 ・付ける力を子ども達と共有し、力が付いたと実感する授業 ・子どもが対話したり、解決方法を自分で選択したりする授業	

福山市立日吉台小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	自ら学ぼうとする意欲を育み、力を付ける。	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>読む力、書く力、表現する力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付ける力を児童と共有する。</li> <li>目的意識を持たせて、言語活動を行う。</li> <li>自分の考えを書く活動を位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期末確認テスト(思考・表現等) 国語・算数70点以上</li> <li>校内漢字検定90点以上</li> <li>図書館の利用週1回以上60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学期末確認テスト(思考・表現等) 国語 85点 算数 72.1点</li> <li>□校内漢字検定 97.8点</li> <li>□図書館の利用週1回以上 62.5%</li> <li>・基礎的な学力は概ね定着している。</li> <li>・図書館の利用が少ない。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点単元を設定し、思考を問う問題を作成し、実施する。</li> <li>国語科だけでなく、他教科でも言語活動を取り入れる。</li> <li>教育課程外の時間で、思考の基礎となる知識技能の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□指標に係る取組状況</li> <li>◎短期中期経営目標の達成状況</li> <li>□学期末確認テスト(思考・表現等) 国語 89.1点 算数 75.7点</li> <li>□校内漢字検定 96.2点</li> <li>□図書館の利用週1回以上 74.9%</li> <li>◎基本的な学力は、概ね定着している。</li> <li>◎図書館の利用者が固定化している。</li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識をもたせた言語活動を継続するとともに、多様な繰返し学習、自主学習で、力の定着を実感させる。</li> <li>授業での図書館の利活用を工夫する。</li> </ul>
			継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぼうとする意欲を育む授業づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な方法で学習を行う。</li> <li>探究的な展開になるような単元づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「難しい問題でもあきらめずにやってみようと思う」 94.2%</li> <li>□「もっと知りたい、学びたい」 91.3%</li> <li>・多様な方法で学習することで、自ら学ぼうとする意欲が育っている。</li> <li>・探究的な展開になる単元づくりは十分とは言えない。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学びによる学習展開を行い、学習方略を意識した振り返りを行う。</li> <li>探究的な展開による単元づくりについて、再度研修を行うとともに、実践を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「難しい問題でもあきらめずにやってみようと思う」 91.1%</li> <li>□「もっと知りたい、学びたい」 88.9%</li> <li>◎学びに向かう学級・学校風土ができ、自ら学ぼうとする意欲が育っている。</li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科と総合的な学習の時間を中心に、教科を超えて探究的な展開になるような単元づくりをする。</li> </ul>	
2	自らに自信を持ち、相手を思いやる心を育成する。	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を自覚しながら、協働してやり抜く力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動目標に対する振り返りを継続する。</li> <li>自主的な係、委員会活動を促進する。</li> <li>児童が企画運営する異学年活動、学習発表の場づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学級や委員会で自分の役割を果たしている」85%以上</li> <li>「目標や努力することを決めて取り組んでいる」85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「学級や委員会で自分の役割を果たしている」 92.7%</li> <li>□「目標や努力することを決めて取り組んでいる」 92.0%</li> <li>・行動目標に対する振り返りを随時行うことが、自信をもつことに繋がっている。</li> <li>・自主的な係活動が定着しており、自分の役割を自覚しながら、協働的な取組を行っている。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの質を上げることで、次の行動に繋げる。</li> <li>委員会活動では、短期集中の取組も行う。目標達成の状況を振り返ることで、次の課題解決に向けた取組を考える。</li> <li>係活動の好事例を児童同士が紹介し合う場をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「学級や委員会で自分の役割を果たしている」97.0%</li> <li>□「目標や努力することを決めて取り組んでいる」 97.0%</li> <li>◎自分の役割を自覚させ、やり切る力の向上に努めたことにより、協働してやり抜く力も育っている。</li> </ul>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組→検証→改善→取組のサイクルを児童と共有しながら、課題改善に向けた自主的な活動を促す。</li> <li>係活動の目的を常に確認し、必要性を吟味しながら取り組ませるようにする。</li> </ul>
3	自らの生活を律するたくましい心と体を育成する。		見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体力づくりに取り組む態度を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題を踏まえた自己目標を立て、振り返ることで成長を実感させる。</li> <li>主体的に参加できるレクやイベントを継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動やスポーツをすることが好き」80%以上</li> <li>「自分で寝る時刻、起きる時刻を決めて守っている」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「運動やスポーツをすることが好き」 90.9%</li> <li>□「自分で寝る時刻、起きる時刻を決めて守っている」 79.3%</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、元気委員会による遊びの紹介やレク、全校児童が参加できるイベントを開催する。</li> <li>自分で自己目標を設定する活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「運動やスポーツをすることが好き」 92.6%</li> <li>□「自分で寝る時刻、起きる時刻を決めて守っている」 78.2%</li> </ul>	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に参加できるイベントを継続する。</li> <li>体育の授業で行う動きや活動が固定化しないように、児童実態を踏まえて幅をもたせる。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>生活振り返りシートで、自分の課題や目標を自覚させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>元気委員会によるレクやイベントの実施、ロングロング屋休憩の継続が効果的であった。</li> <li>生活習慣の乱れが固定化しており、寝る時刻を自分で決められるように、個に応じた支援をする必要がある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣を整えることの意義を再確認するとともに、保護者への情報発信、アウトメディアチャレンジ週間や生活振り返り週間の取組を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なイベント、体を動かす機会を作ったことで、挑戦しようとする雰囲気醸成されている。</li> <li>◎ロングロング屋休憩や朝活 Weekなどで運動量が増えた。</li> <li>◎保護者への情報発信が不十分である。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトメディア、生活振り返りを継続するとともに、保護者を巻き込む取組になるよう内容を工夫する。</li> </ul>	
3	教職員が自身の力量向上に向けて、やりがいと充実感を持って働こうとする職場環境を作る。	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育公務員としての自覚と責任を持ち、学校運営へ参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌について、目的と方向性を確認しながら企画立案する。</li> <li>各自が自己研修計画を作成する。</li> <li>小グループでの教材研究を定期的に行う。</li> <li>環境整備、教材教具の充実に向け、適切な予算執行を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仕事に意義ややりがいを感じている」 90%以上</li> <li>「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」 90%以上</li> <li>時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仕事に意義ややりがいを感じている」 93.3%</li> <li>「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」 73.3%</li> <li>時間外在校時間月45時間以内職員100%</li> <li>自己研修計画に基づき、小グループでの教材研究、授業づくりを行い、交流することができた。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、各推進部で、目的と方法を見極め、企画立案し、取組の進捗状況を確認するとともに、検証を確実に行う。</li> <li>日常的に現状や課題を話しながら、取組の方向性を確認していく。</li> <li>教材研究の充実、児童への適切な支援などを協議しながら、授業づくりの楽しさを共有していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「仕事に意義ややりがいを感じている」 100%</li> <li>□「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」 100%</li> <li>□時間外在校時間月45時間以内の職員 100%</li> <li>□年360時間以内の職員84.2%</li> <li>◎参画意識を持ち、目的と方法を検討し、取組状況を確認しながら進めることができた。</li> </ul>	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的と方法を見極めながら取組を精査する。</li> <li>企画立案、取組の実施、進捗状況の把握、検証を丁寧に行う。</li> <li>各自が教育公務員としての自覚を持つとともに、日常的に現状や課題を共有しながら、教育の本質に迫る取組を継続する。</li> </ul>

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。